

Y. U. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私が留学を考え始めたきっかけは、中学 1 年生の夏休みにアメリカで経験した約 1 か月間のホームステイです。その経験から、「もっといろいろな景色を見て、海外の人とコミュニケーションが取れるようになりたい」と思うようになり、大学生になったら長期の留学に行くことが私の中で一つの目標でした。その中でも、①現地の大学で、現地学生や各国からの留学生と共に専門的なことを学ぶことが出来る点 ②国際課からの手厚いサポートがある点 ③単位が修得できる点 ④費用の負担が減る点 に魅力を感じ、協定留学を目指しました。また、ドイツ留学を決めた理由としては、ヨーロッパ各国の学生をはじめとして、こんなにもさまざまな文化が交わる環境で学ぶことができる機会はないと思ったからです。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

専門分野を学びながらも日頃から英語に触れる環境に身を置きたいと考え、社会システム学科の中でも、CASE のクラスに入りました。特に、CASE 上級のプログラムである Project Based English の授業に力を入れました。この授業では、ネイティブスピーカーであるフィリピン留学生と共にプロジェクトを進める必要があったため、英語でのコミュニケーション能力だけではなく、異文化理解等、留学先でも役に立つ力を身につけました。また、バイトやサークルと両立して勉強する必要がありました。そのため、空きコマの時間に国際課が主催している Writing & Speaking Support を利用してスピーキングの練習を行い、授業がなくても 1 限に大学に行って筆記の対策をするなど、IELTS の勉強を効率良く行えるよう努めました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学先大学への出願や、寮の手続きは全てオンライン上で行いました。また、新型コロナウイルスに対する入国書類やワクチン接種の証明など、刻々と条件が変化するため、ギリギリまで様子を見ながら慎重に用意しました。ドイツの場合は、事前にビザの手続きをする必要はなかったので、必要書類を準備しておく程度でした。その分、入国後にしなければならない手続きが多かったので、オリエンテーションが始まる日よりなるべく早い日に入居できるよう手続きを行いました。実際、余裕を持って行って正解だったと思います。勉強に関しては、英語と並行してドイツ語の勉強も積極的に行いました。

④ 現地到着後

空港に到着後、タクシーに乗って寮まで移動しました。事前に寮の管理人の方とお会いする時間を決めていたので、手続きをした後すぐに自分の部屋に入ることが出来ました。注意点としては、寮には無線の Wi-Fi が無かったため、家電量販店にルーターを買いに行く必要

があります。入国後の手続きに関しては、2 週間後にあるオリエンテーションまでになるべく全て終えたかったので一つずつこなしていきました。住民登録をするための市役所は、コロナ対策として完全予約制でした。（帰国時にしなければならない住民登録解除の時も予約してから行くとスムーズに終わりました。）また、ビザの申請をするに当たって閉鎖講座を開設し、それとあわせて閉鎖口座から毎月振り込まれるお金を受け取るための普通口座を両方ともオンラインで開設しました（閉鎖口座：Expatrio、普通口座：N26）。早々と必要な書類を全て用意したのにも関わらず、一番苦戦したのがビザの申請です。早朝から何度も外国人局に行きましたが、ある程度の人数で区切られるため、窓口に行くことすら初めは出来ませんでした。また、窓口にたどり着いたとしても“ドイツの外には出られるが入ることはできない” 仮ビザというもののしか貰うことが出来ませんでした。（EU 加盟国内での旅行はビザなしでも可能でした。）オリエンテーションでは一部を除き、州内乗り放題の機能が付いてある学生書をもらいました。また、旧市街を案内するツアーに参加し、他の留学生とも交流をする機会がありました。

⑤ 語学研修期間

語学研修先の施設・環境について

◆ 授業内容、課題、試験

語学研修はありませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

所属している学部ごとに建物が異なりましたが、どの建物も近代的で綺麗でした。春や夏の期間は学生がよく、キャンパスの真ん中にある芝生で過ごしていました。また、食堂ではとても安くドイツ料理を食べることが出来るのでよく利用していました。

◆ 履修科目

オリエンテーションの期間に Summer Semester の履修登録を行いました。その場で紙に書いて手渡す感じでした。Winter Semester の場合は、オリエンテーションに参加する必要はなかったので、夏休み中にメールで履修したい科目を送りました。

* (SS) = Summer Semester, (WS) = Winter Semester

• International Teamworking Skills

ブロック授業 (SS) / 国際的な会議の場で注意すべきコミュニケーションの取り方や文化の違いによる異文化理解の大切さについて学ぶ授業です。

• Social Justice, decolonization and Eurocentricity in music education

ブロック授業 (SS) / ヨーロッパの音楽教育や、その音楽教育がどのように社会に影響を与えているか異文化理解を通して学ぶ授業です。

• In the City! Music and Urbanization in Cultural Perspective

ブロック授業 (SS) / 日常生活や街に存在する音楽についてフィールドワークもしながら学ぶ授業です。音楽の他にも建造物や都市問題についても学びます。

• **Cross-Cultural Psychology**

通常授業 (SS) / 心理学の観点から異なる文化間でのコミュニケーションの取り方や行動の違いについて学ぶ授業です。

• **International Perspectives on Social Work and Practice – Part1**

通常授業 (SS) / ジェンダーや移民問題、人権問題など今日の社会問題となっている点にどのように向き合っていくべきかについて学びます、

• **International Perspectives on Social Work and Practice – Part2**

通常授業 (WS) / Part1 とは異なる題材で、ジェンダーや移民問題などを学ぶ授業です。

• **Introduction to Children's Right**

通常授業 (WS) / 国連やドイツの子どもの権利条約について、憲法に関する資料をたくさん読みながら学ぶ授業です。

• **Social and Personality Psychology**

通常授業 (WS) / 心理学の授業で、異文化間の行動や考えの違いについて学ぶ授業です。

◆ **授業、レポート、定期試験**

• **International Teamworking Skills**

ブロック授業 / 基本的にオンラインで、最後の 2 日間のみ対面で行いました。授業は講義形式で、その日のうちにレポートを提出する必要がありました。また、毎日の課題と別に最終レポートの提出もありました。

• **Social Justice, decolonization and Eurocentricity in music education**

ブロック授業 / 少人数だったため、割と自分の意見を発言する機会が多かったです。最終日に個人でのプレゼンテーションがありました。

• **In the City! Music and Urbanization in Cultural Perspective**

ブロック授業 / 授業は講義形式で、その日の内にレポートを提出する必要がありました。毎日の授業とは別に最終レポートがありました。

• **Cross-Cultural Psychology**

通常授業 / 前半は教授による講義。後半はテキストをもとにグループでのプレゼンテーションを行いました。最後に最終レポートがあります。

• **International Perspectives on Social Work and Practice – Part1**

通常授業 / 授業は講義形式で、人数がとても多かったため、ハイブリット形式の授業でした。外部からゲストとして教授が来られ、講義をすることが多かったです。最後に最終レポートがありました。

• **International Perspectives on Social Work and Practice – Part2**

通常授業 / 授業は講義形式で、人数がとても多かったため、ハイブリット形式の授業でした。外部からゲストとして教授が来られ、講義をすることが多かったです。最後に最終レポートがありました。

・ **Introduction to Children's Right**

通常授業 / 授業は主にグループワーク形式で行われました。条約を何ページも読み、理解する必要があったため日々の予習復習は十分にしなければなりません。冬休み中にクイズ形式のオンラインテストと最終日に個人でのプレゼンテーション、それに対するハンドアウトの提出がありました。

・ **Social and Personality Psychology**

通常授業 / 授業は講義形式とグループワーク半々くらいでした。中間あたりから、グループでのプレゼンテーションも並行して行われました。毎回の授業の中で課題が出され、最終日にまとめて提出する形でした。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

デュッセルドルフで行われ、毎年 60 万人以上が来場する日本デー(Japan-Tag)にボランティアとして参加し、日本文化のコーナーで折り紙を教えました。留学に行く前から日本デーのことを知っていたので、日本デーでボランティアをすることが私の留学生活の一つの目標でもありました。英語やドイツ語で折り方を説明しなければならなかったのが不安でいっぱいでしたが、小さなお子さんからお年寄りの方まで日本文化を楽しんでいる姿を間近で見ることが出来て誇らしくなったと共に、大きな達成感を味わうことが出来ました。

⑧ **現地での住まいについて**

現地での住まいはこちらで指定することはできませんでしたが、3ヶ所あるようです。私の寮は完全個室で一人部屋、キッチン・トイレ・バスルーム・基本的な家具(ベッドや机、椅子)は全て揃っていました。私は留学に行くまでも一人暮らしをしていましたが、部屋はかなり広く感じました。大学まではトラムで 40 分ほどかかります。中央駅付近にいくつかアジアスーパーがあったので、お米や日本の調味料など、自炊に必要なものはある程度揃えることが出来ました。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

夏休みは、7 月下旬から 10 月中旬まででありました。大学 3 年生だったため、企業研究や自己分析、セミナーを受けるなど就活に向けての取り組みも少しずつ行いました。また、この期間を利用して飛行機を利用するような少し遠くの国にも旅行に行きました。一方、お正月の文化がないため、冬休みは 11 日間とても短かったです。旅行にも行きましたが、基本的には最終レポートや年明けのプレゼンテーションに向けて準備を進めていました。また、イギリスに兄がいたので私のところに会いに来てくれました。

⑩ **留学期間中の就職活動の取り組み**

帰国してすぐに就活が本格化するとわかっていたので、夏休みを利用してなるべく色々な企業を調べていました。時差の影響で中々、体験型のインターンには参加することはできませんでしたが、説明会形式のものはいくつか参加しました。授業期間中は学業に集中する方がいいと思ったので基本的にはしていません。スーツを着用した顔写真を持って行っておらず、少し困ったのでデータとして用意しておけばよかったなと思いました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

こんなにもヨーロッパをはじめとして、色んなバックグラウンドを持つ学生と一緒に学び、それぞれの経験や意見を共有出来る機会はないと思うので、毎日がとてもかけがえのない時間でした。また、週末や長期休みには色々な国に旅行に行きました。電車に乗っていると、国境を越えた感覚がないので毎度とても不思議な感覚でした。しかしその土地によって食べ物や建物、暮らしは全然違ったのでどこに行っても毎回新鮮で全て素敵な思い出です。特にクリスマスの時期は色んな地域のマグカップを集めにおでかけをすることにハマっていました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

先述した通りビザの申請がとても大変でした。取得のために何度も試みましたが、結局 1 年経っても取得することは出来ませんでした。周りの留学生でもビザを取得できた人は 1 人しか知らないです。授業に関しては、Winter Semester は同じ学部留学生が私含め 2 人しかおらず、現地学生と私 1 人という授業が多かったのでついていくことにとても必死でした。しかし、教授が普段から気にかけて下さる上、周りの学生が優しくサポートしてくれるのでなんとか予習復習を繰り返しながら乗り切ることが出来ました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

とにかく電車が遅れることです。そのため、遅れることを前提として計画を立てる必要があるほか、その時々で対応しなければなりません。しかしこの経験から、問題に自ら対処する力が身に付いたので、今ではとても良い経験だったなと思っています。また、年末の数日だけスーパー等で打ち上げ花火が販売され、あちこちで発砲のような大きな音がしていたので初めはとても驚きました。注意点としては、日曜日と祝日はほとんどのお店が閉まってしまうので事前に買いだめしておく必要があります。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

年齢層が幅広く、日本では体験できないようなことを普段から経験している方も多かったものでとても刺激の多い日々でした。授業はグループワークが多く、自分の意見や経験をしっかり伝える必要がありました。ドイツなのに教授や現地学生はネイティブスピーカーのように英語を流暢に話していたので、英語を学ぶには十分だと感じました。また分からないこ

とがあれば、International Office や教授、現地の学生など色んな方が優しくサポートしてくれます。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

レポートの提出やプレゼンテーションをするための資料作成をする機会が多いため、パソコンは必須だと思います。また、夏のヨーロッパはとても日差しが強いので日焼け止めクリームや帽子を持って行くといいと思います。私は日傘兼雨傘のものを持って行っていたが、現地の人で日傘を使用している人は一人もいませんでした。冬場はとても寒いので手袋等防寒具は必須です。個人的には、アジアスーパーで日本のお米を買って毎日のように食べていたので、お米の印つき計量カップがとても役立ちました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

初めはなかなか自分の意見を英語で言語化することが難しく、悔しい思いもたくさんしました。しかし、せっかく留学に来たのだからこのまま終わりにたくないと思い、自分から積極的に会話に入ることに努めました。もちろん思うように伝えることが出来なかったことも多かったのですが、周りの学生が言いたいことを汲み取って優しくフォローしてくれるので、とにかく話すことが大切だと実感しました。授業では特にリスニング力が向上したと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私にとって留学は今後の人生にも関わるとても価値のあるものでした。楽しいことだけではなく、苦しい辛い思い出もたくさんあります。しかし留学しなければ味わうことのできない経験ばかりで、絶対に挑戦して後悔はないと思いますし、自分の強い武器にもなります。気軽に海外に行ける時代になったからこそ、留学という立場で海外に挑戦してみたいです。自分の視野を広げたい、海外の文化に興味があるなどどんな理由でも構いません。大学生であるこの限られた期間に、ぜひ挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

留学中は良くも悪くも自分自身と向き合う時間がたくさんありました。しかしそれが就活においても、今後の人生においても役に立つものだと思っています。留学前と留学後で大きく変わった点としては、海外で活躍できる人になりたいという思いから、今回の留学の経験を通して、日本から日本の魅力を海外に伝えたいと思うようになりました。そして、社会人になって成長した姿で再び思い出の地であるヨーロッパを訪れたいです。

V. 写真



日本デーでボランティア活動をしたときの
写真です。この時勇気を出して挑戦した経験
が、今では大きな財産です。



個人的に一番訪れたかった場所、スペインのトレドです。街全体が世界遺産になっています。
3 日目だったのですが高熱が出でしまい、とにかく坂道がきつかった思い出です。



これはケルン大聖堂の真横で開催していたクリスマスマーケットの写真です。いろんな地域のクリスマスマーケットを巡りましたが、それぞれにテーマがありとても楽しかったです。



これはほんの一部ですが、マイブームとして訪れた土地のハガキを集めていました。使うのが勿体無いくらい思い出深いものなので今は大事にしまっています。

N.1. 日本語日本文学科 3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私が留学をしようと決定的に思ったのは 1 年生の夏休みが明けた頃でした。大学に入学すると同時に新型コロナウイルスが流行し、授業やサークルなど大学に係ることだけでなくアルバイトや人と会うこと自体も制限され、春学期のほとんどを家で過ごしました。それでもすぐに収束するだろうと何となく考えていて、夏休みが終わる頃になっても状況が悪化するばかりであった時に事態の深刻さに気づきました。このまま何もしなければ大学生活が何もないままに終わってしまう、そんな状態で社会に出るなんてことがあってはいけないと考え、これから挽回するにはどうすればよいか思考し、以前より興味があった留学を真剣に目指そうと決意しました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

私は英語での留学だったので IELTS のテキストを購入し、取り組みました。また、実践的な英語を学んでおくべきだと思ったのでネットフリックスで洋画を視聴したり、洋書を読み、言い回しや単語をノートに書き出したりといったこともしていました。IELTS は他の英語資格試験に比べると実力が問われる試験ではありますが、それでも解き方を知っているかいなかでは点数に大きく差がつかしました。私は YouTube にアップロードされている IELTS の対策動画を視聴しました。特に writing のパートではグラフから情報を読み取り英文で説明するのですが、使う単語や文法が限られてくるので事前に暗記しておき、当日の問題に合わせて文章を組み立てるだけでかなりスコアを稼ぎやすかったです。

③ 留学決定から出発までの準備期間

ドイツは現地でビザが取得できると伺っていたので準備期間に具体的な取得方法を調べて書類をたくさん用意していきました。結果として私は 1 年間でビザを取得できなかったの日本で取得していくことをお勧めします。ドイツ語の勉強に関しては全くしませんでした。

④ 現地到着後

空港からはタクシーで寮へ向かいました。30 分ほどで料金は 50 ユーロほどかかったと記憶していますが、帰りに Uber を利用したときには 30 ユーロほどでした。

早めに渡独したので、オリエンテーションまで 2 週間ほどありました。その間に住民票の取得や口座の開設などを済ませました。ドイツでは大学の学生証がバスやトラムといった交通手段のための定期券となり、オリエンテーションの日に受け取りになるのですが、事前に受け取りたい旨を連絡しておけば入手可能のようでした。オリエンテーション期間には多くのイベントがありました。ここで友人ができたので参加してよかったです。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学研修はおこなわれていません。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

施設はとても綺麗で大きかったです。学科ごとに建物が決まっていました。

◆ 履修科目

オリエンテーションの際に科目の説明と履修登録のやり方を教えてもらえます。2 セメスター目は担当の方にメールで履修したい科目を伝えました。Moodle という授業支援システムを利用します。

・ International Teamworking Skills

異なる文化的背景を持った人たちでプロジェクトに取り組む際に重要なことは何かを学習しました。

・ Crosscultural Psychology

異なる文化がどのように心理学的に影響するのか学習しました。様々な国の文化が学べるとともに国民性のようなものも知ることができます。

・ Social Justice, decolonization and Eurocentricity in music education

音楽の観点から社会問題について学習します。植民地や白人主義などの観点からの学習になるので少し難しいです。

・ In The City! Music and Urbanisation in Cultural Perspective

音楽的都市論についてです。大都市におけるパンクやテクノ、サブカルといったような音楽にフォーカスして学習しました。

・ Social and Personality Psychology

社会心理学と人格心理学です。文化比較の観点はありますが基本的には心理学の授業です。

◆ 授業、レポート、定期試験

・ International Teamworking Skills

集中講義型の授業です。最終レポートがあり、自国とドイツの違いをまとめました。

・ Crosscultural Psychology

ペアでプレゼンテーションがあります。最終レポートは自分の担当しなかったパートをまとめたものを提出しました。

・ Social Justice, decolonization and Eurocentricity in music education

集中講義型の授業です。個人でのプレゼンテーションがあります。私は刑務所における音楽活動についてまとめました。

・ In The City! Music and Urbanisation in Cultural Perspective

集中講義型の授業です。最終レポートがあります。私は日本の文化と絡めてサブカルチャーについてまとめました。

・ **Social and Personality Psychology**

ペアでプレゼンテーションがあります。最終レポートがあり、授業で 10 個の問題が提示されるので学習内容に沿って回答していったものを提出しました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

特に行っていません。

⑧ **現地での住まいについて**

現地での住まいは寮でした。一人暮らしには十分な部屋でしたが、本当に基本の設備があるだけなので、食器や調理器具、ハンガーなど買い揃えるものは多くありました。私は 1 年間暮らすので電子レンジも購入しました。シャワーはユニットバスで個人的な感想は刑務所のようなものでした。しかし、寮によってもう少しマシなところもあったようでした。食事は基本自炊でした。また、デュッセルドルフにはアジアスーパーが多くあり、私はお米と袋麺を常備していました。基本的に、ヨーロッパのお店は日曜日は空いていないので、最初の頃は気を抜くと家に何も無いという状態になっていました。ちなみに日曜日でも中央駅の中にあるお店は開いています。通学には 40 分ほどかかりました。電車一本で通えましたが 3 か月ほどその電車が運行しておらず、その間はかなり不便でした。

⑨ **留学期間中の就職活動の取り組み**

新型コロナウイルスの影響で多くの企業がオンラインによる説明会やインターンシップを行なっていましたが、時差により時間が合わないので、私は SPI などの学習と自己分析をおこない、どのような仕事がしたいかなど、日本に帰ってからどう動いていくかをじっくり考えました。しかし、3 年生の間に説明会には多く参加しておくべきだったと感じました。

II. 留学の感想

1. 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

1 年間の留學生活の全てが最も楽しく思い出深いものです。友人の家でお泊まり会をしたり、パーティーに呼んでもらったり、おしゃれなカフェでモーニングを楽しんだり、人生で初めてビリヤードをしたり、新しい体験ばかりで毎日が充実していました。1 年間で 12 カ国に旅行に行き、かけがえのない友人がたくさんできました。留学中のすべての時間が心から楽しいものだったといえます。

2. 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

渡独してから最初の 1 週間が一番つらかったです。初めての 1 人暮らしだったので 1 人の部屋がとても寂しく、慣れない環境でやるべきことがとても多かったので苦勞しましたが、1 か月が過ぎる頃には順応できました。

3. 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

サービスという点からいうと、日本と比較するとどうしても足りないと感じることが多かったです。飲食店に入っても店員を呼ぶのに時間を要します。役所や空港であっても回答する人によって異なる案内をされます。日本のサービスに慣れていたのでドイツ人の接客態度に最初は驚きました。また、至る所でマリファナの匂いがします。一度行けば帰国までに匂いがわかるようになると思います。ホームレスが多く、10メートルに一個ほどの間隔でゴミ箱が設置されていますが、地面にはゴミが多く、タバコの吸い殻もたくさん落ちていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

他大学に留学している子を見ていて感じたのですが、デュッセルドルフ専門大学はかなり留学生向けの優しい大学であったように思います。きちんと授業に出て先生とコミュニケーションをとって課題に取り組めばスコアを落とすことはまずありません。また留学生だけでなく現地の学生と一緒に授業を受けられるのもよかったと思います。先生やクラスの雰囲気など、どこをとっても悪かった点は特にありません。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

レポート課題が多いのでパソコンは必要です。医薬品と、私は持って行かずに後悔したのが体温計です。それから多く旅行をしたので機内持ち込みサイズのスーツケースを持って行けばよかったです。服は現地でたくさん買ったので最小限にすればよかったです。基本的に日本でしか買えないものというのはあまりないのでインスタント食品をしこたま詰めていけばいいと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私はリスニングにとっても弱く、何をいつているか聞き取れないので最初はコミュニケーションがほぼ全くといっていいほど取れませんでした。しかし、積極的に人と関わるようにしたので、次第に聞き取れるようになりました。また私は机に向かって勉強するというより現地の人と関わっての実践的な語学力向上を重要視していたので、留学前に比べて単語や文法の知識が格段に増えたというよりも、いかに簡単な単語、文章で自分の意思を伝えるかというスピーキング力がかなり成長したと思います。最初は英語だけで友人と出かけるのが辛かったのですが、コミュニケーションが取れるようになり楽しい時間を過ごせるようになったと気付いた時は本当に嬉しかったです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

日本は日本人が 90%以上を占める国です。しかし、ヨーロッパに留学するとなると自分が圧倒的にマイノリティになります。何事においても主体性を持って動けなければ充実した日々を過ごすことは難しいと思います。自分から S O S を発信できなければ誰も助けられませんし、人と関わろうという姿勢を示せなければコミュニティも広げられないです。

ですが私は留学して本当に良かったと思いますし、迷っているならお勧めしたいです。上記のことは私自身、留学してから感じ、苦労したポイントなので、逃げられない環境に飛び込んでみることで大きく成長できると思います。

またドイツ語に関してですが、私は結局ドイツ語はほとんど成長しませんでした。しかし日常生活は英語で十分成り立ちます。友達もできます。英語もあまり得意ではない人には特にドイツをお勧めしたいです。現地で会ったイギリスやアメリカのネイティブの英語は特に聞き取れませんでした。ドイツ人の英語は聞き取りやすく、成長しやすいと思います。

IV. 将来の目標

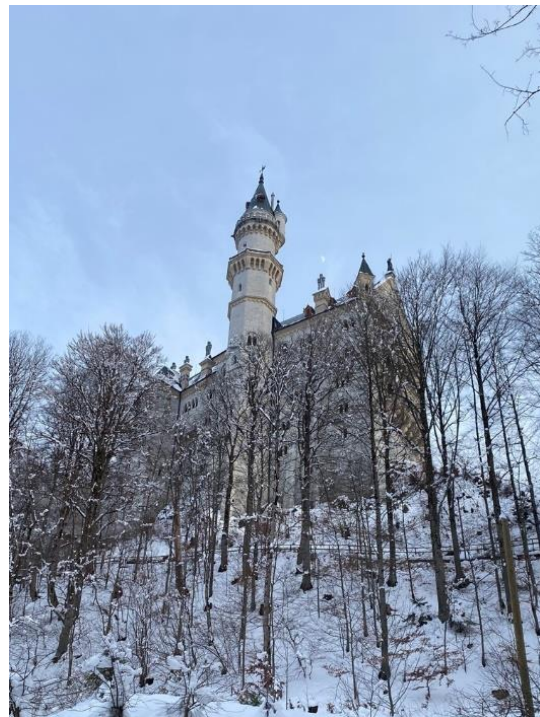
今後の進路、将来の目標・夢

留学前は、将来は海外で働きたいと思っていました。しかし、実際に留学して日本の良さを心から実感したので、今は日本で暮らしながら、世界に日本の良さを発信する仕事に携わりたいと考えるようになりました。

V. 写真



友人の誕生日パーティーに誘ってもらった時の写真です。とても盛り上がり、楽しかったです。



ドイツを代表するお城、ノイシュヴァンシュタイン上です。冬に訪れると雪との相性がとてもいいです。



私的にもっともドイツらしい
景色です。ローテンブルクの
ガイドブックなどで一番よく
みる場所です。



イタリアのヴェネチアでゴンドラに
乗りました。ヨーロッパ留学の強みは
多くの国を訪れることができる点に
あると思います。



友人が留学中にドイツを訪れてくれた
時の写真です。パリへ旅行に行きまし
た。留学中に撮った写真の中でベストシ
ョットです。